

19号の  
クリエイターは  
どんな人？



今回の表紙と特集は、なんと！看板屋さんがデザインしてくれたんよ。これまでどんなお仕事してたんやろか。ちょっと教えてもらってくるわ。

大衆食堂 スタンドそのだ 暖簾(2017)  
©Kiyotoshi Takashima



Get湯1(2016)  
©Kiyotoshi Takashima



廣田碧(看太郎)さん

デザイン事務所でグラフィックデザイナーとして活動後、2015年から実家の稼業である看板屋の2代目を継ぐ。手書きのレタリングやドローイング、グラフィックといった平面のデザインを、電飾や看板など、さまざまな素材・媒体を用いて空間へと展開することを試みている。



— これってお店が開いた時に出す暖簾やんな？  
廣田 そうなんです。大衆食堂の暖簾用の文字を書きました。暖簾は風でゆらゆらと揺れて人の目を引く看板としての役割を持っています。

— この暖簾を写真に撮ってくれる人がいたり、今では少し布が汚れてきているのも、街の風景に馴染んでいっているようで嬉しく思っています。

— ええ話や、ほんで次はお風呂グッズかいな？  
廣田 京都のショップ&ギャラリー「VOU/棒」と銭湯「サウナの梅湯」、熱海のカルチャースポット「論LONESOME寒」の三者が、銭湯カルチャーを盛り上げるために定期的で開催しているイベントのロゴと、広報物、グッズのデザインを担当しています。古くから続いてきたものを上手に活用して、今でも十分楽しめるものにする、ということは、私の書き文字の理念とも共通しています。

— なるほどなあ。現代の看板屋さんはほんまにいろんな現場で活躍してるんやな。うちにもいっちょ書いてもらいたいわあ。

enokojima creates osaka  
**enoco**

大阪府立江之子島文化芸術創造センター[enoco]  
Enokojima Art, Culture and Creative Center, Osaka  
Prefecture

アートやデザインの創造力で、都市を元気にすることを目指し2012年4月にオープン。展示室や多目的室のレンタル事業を行うほか、企画展や公演、セミナー・ワークショップなどを開催し、クリエイティブな人や情報が行き交うプラットフォームとなることを目指しています。

〒550-0006 大阪市西区江之子島2丁目1番34号

開館時間:10:00~21:00(ただし展示室は催しによりオープン時間が異なります)

月曜・年末年始(12月29日~1月3日)休館

電話 06-6441-8050 | FAX 06-6441-8151

メール art@enokojima-art.jp

www.enokojima-art.jp

enocoニュースレター 19 2019年1月発行

| 発行 | 大阪府立江之子島文化芸術創造センター

| 編集 | 吉原和音(enoco 企画部門)

| 表紙・特集ページデザイン | 廣田碧(看太郎)

| イラスト(エノケン、似顔絵) | タダユキヒロ

| アートディレクション | 後藤哲也(OOO Projects)

| デザイン | 小池一馬(OOO Projects)

「enocoニュースレター」は、enocoが年3回発行する情報誌。

enocoで起きていることや、enocoにかかわる人々が日々考えていることをお伝えしていきます。



【アクセス】

地下鉄(Osaka Metro)千日前線・中央線「阿波座駅」下車、8番出口から西へ約150m、徒歩約3分。

enoco19 えのこdeマルシェ解体図



江之子島文化芸術創造センター/enocoがお送りする「enoco ニュースレター」。表紙と巻頭は、毎号異なる関西のクリエイターたちが担当します。19号の特集は「えのこdeマルシェ解体図」と題し、現場で起きていることや、つくられつつあるネットワークを文字に置き換え、enocoに看板を出すように見せています。表紙は光るシンボルとしてenocoの文字をデザインしています。19号の表紙・特集/ デザイン: 廣田碧(看太郎)

# えのこdeマルシェ 解体図

“まちの景色を少し変えてみる”を合言葉に、enocoとクリエイター共同で企画・運営しているプロジェクト「えのこdeマルシェ」は今年で4年目を迎えました。今号の特集では、enocoがマルシェを通して、江之子島のまちに仕掛けていることを3つのポイントから解説するとともに、形成されつつあるネットワークの可視化を試みます。

一つ目は場の賑わいづくり。開館当初の江之子島は、一体が仮囲いされ工事音が響くまちづくりの真っ最中。「新しいまちが出来るのに殺風景で寂しい」そんなつぶやきから、人と物が行き交う場をつくらうという動きが生まれ、駐車場から小さくスタートしたのがはじまりです。徐々に地域にも恒例イベントと認知され、春の開催では約5000名の方が訪れる賑わいのある風景が広がりました。

二つ目は文化的コミュニティづくり。クリエイターが集う機会をつくることで、集まった人同士が繋がり、そこから次の機会へ繋がっていく、そんなアメーバの様に広がるコミュニティになればと考えています。また、江之子島周辺を仕事や活動の拠点とする人々も集いはじめ、事業連携や「えのこクラブ」もスタートしています(詳細は前号特集を参照)。

最後はチャレンジです。駐車場や公開空地を会場にすることで、通り過ぎるだけの日常とは違う場の使いこなし方の実験や、ラジオ放送を通じてクリエイターとお客さんを繋ぐ仕組みづくりをするなど、様々なチャレンジの場としてもマルシェは機能しています。

その他にも、たくさんの方が多様な役割を担いながら運営を支えています。その中で起きていることや人について、図を読み解きながら紹介していきます。

## つながる

チラシデザインは小池一馬、ロゴデザインはparagram、イラストは毎回異なるイラストレーターに依頼。ロゴとデザインで連続性を出しイラストは変化させることで、イメージを定着させつつ次が楽しみになるデザインにし、新たなクリエイターと繋がる機会にもなっている。

## 全員集合!!

事務局は2名。当日はenoco全スタッフ、インターン、ボッセ、クリエイターとチームを結成し、会場設計・設営・イベント対応など連携しながら運営。様々な職能を持つメンバーが集結する様はenocoならではの。

## 使いこなしはお任せ

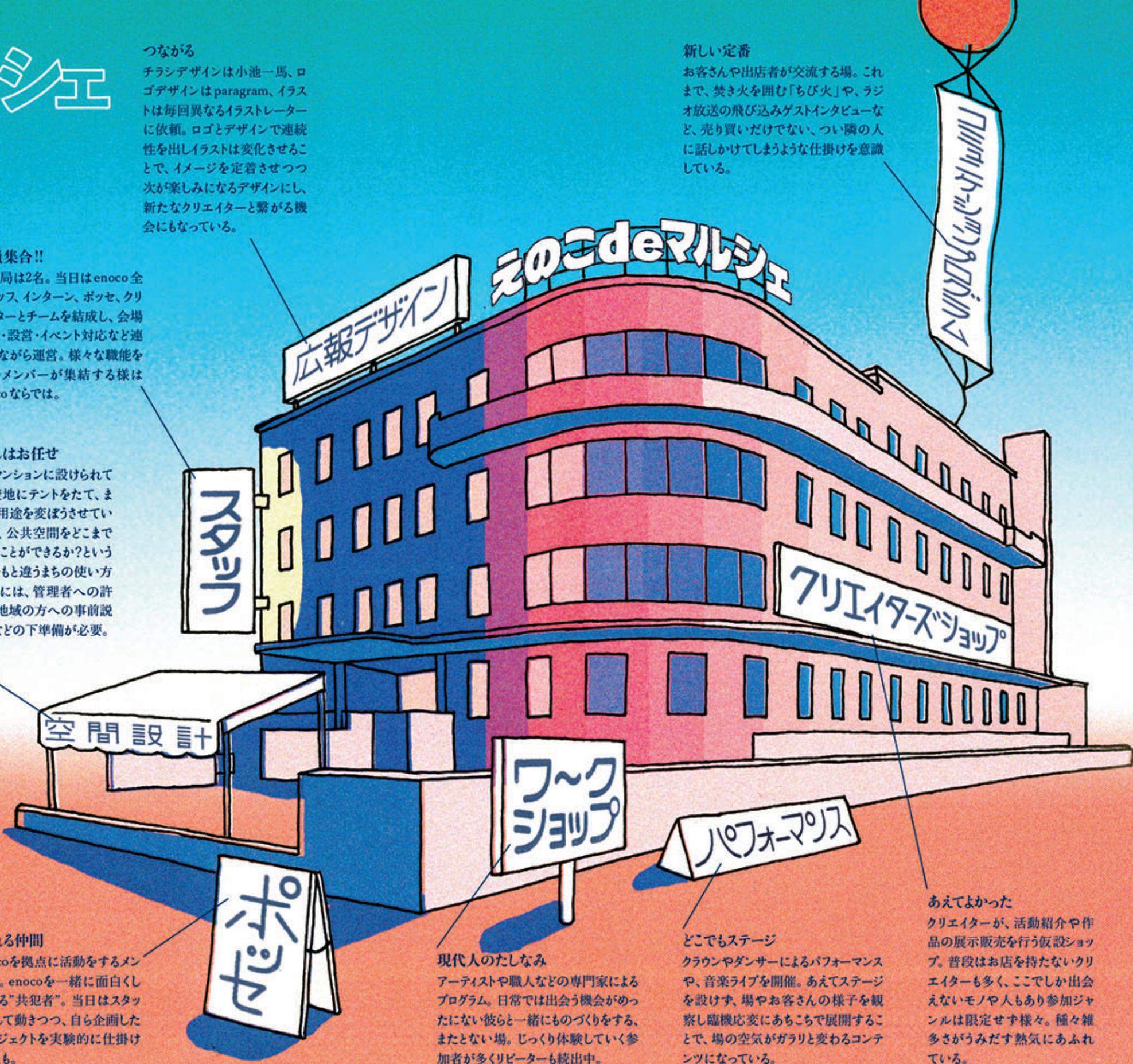
駐車場やマンションに設けられている公開空地にテントをたて、まちの景色と用途を変えようとしている。それは、公共空間をどこまで使いこなすことができるか?という実験。いつもと違うまちの使い方をするためには、管理者への許可申請と、地域の方への事前説明や挨拶などの下準備が必要。

## 頼れる仲間

enocoを拠点に活動をするメンバー。enocoと一緒に面白くしている“共犯者”。当日はスタッフとして動きつつ、自ら企画したプロジェクトを実験的に仕掛けることも。

## 新しい定番

お客さんや出店者が交流する場。これまで、焚き火を囲む「ちび火」や、ラジオ放送の飛び込みゲストインタビューなど、売り買いだけでなく、つい隣の人に話しかけてしまうような仕掛けを意識している。



## 現代人のたしなみ

アーティストや職人などの専門家によるプログラム。日常では出会う機会がめったにない彼らと一緒にものづくりをする、またとない場。じっくり体験していく参加者が多くリピーターも続出中。

## どこでもステージ

クラウンやダンサーによるパフォーマンスや、音楽ライブを開催。あえてステージを設けず、場やお客さんの様子を観察し臨機応変にあちこちで展開することで、場の空気がガラリと変わるコンテンツになっている。

## あえてよかった

クリエイターが、活動紹介や作品の展示販売を行う仮設ショップ。普段はお店を持たないクリエイターも多く、ここでしか出会えないモノや人もあり参加ジャンルは限定せず様々。種々雑多さがうみだす熱気にあふれている。

これまでご協力いただいたクリエイターは総勢125名(2018.12時点)。  
スタッフのつぶやきと共に、お名前を紹介していきます。

クリエイターとの出会いは一期一会。出会った時が  
タイミング。のがさず繋がっていくことがオススメです。

イラスト makomo shop、Private Talk  
Shop(yamyam・西武アキラ・タダユキヒロ・  
makomo)、BAUSHOP、鈴木裕之の  
似顔絵バジ屋さん、Ayumi!、FACE  
SHOP、Apsu、木村耕太郎 ギャラリー  
iTohen、サロンモザイク 雑貨 西淡路  
希望の家、FUYUNIRE 陶芸 TOON/  
陶音、陶刻家 由上恒美 ガラス atelier  
curieux インテリア レコード曲げ屋  
strange stretch records 絵画教室 アトリエ  
e.f.t. 彫刻 北浦和也の似顔絵キボリ

ア  
ー  
ト

雑  
貨  
フ  
ァ  
ッ  
シ  
ョ  
ン

日用品 世界の雑貨 plus maroc、LIFE IS JOURNEY!、ベトナム  
お土産屋さん(ギャラリーみやがわ)、マールイ・ミール、  
SAA アルミ製品と食品 ダイヤメゾン・ダイヤ印 デザイン  
シーラカンス食堂 ココナッツ商品 cocowell ココウェル/  
Francis+Dale フランシスデール(株式会社ココウェル)  
生活道具 日の出製作所

アクセサリー GHOST DEBRIS、  
HAPPY GO LUCKY MARKET  
【Canna Krtec Lotus】、MAgi、arecore  
布小物、服 YWILLIAMS、African  
gazelle、kioku 手芸館「たんす」靴下  
THE SOCKS カラー診断 カラー&ファッ  
ションコーディネーター chihiro ハンカチ  
OLIM

# クリエイターズショップ

食 スタッフ厳選。こだわりのお店が集結しています。  
アジアン食堂花雷、株式会社アンドハコ。ラボラト  
リー、foodscapel、キリン・ディアジオ株式会社、  
SiEMA CHERiE、わがし屋 よだもち、ANCO  
大人のおやつ、あすかマルシェ、玄米カレーと  
チャイ nimo alcamo、北加賀屋みんなのうえん、  
patisserie idee、酒屋へちかん、ニコノパン、  
チーズ魂、marché&dólce、韓国家庭料理 多松、  
道頓堀地ビール(道頓堀麦酒醸造株式会社)、  
El calavera、京都ぎょくろのごえん茶、DONUTS  
& BAKES SWEETS hanauta、みっちゃんのみ、  
globe mountain Coffee、ジェラート屋オオジ、  
平飼い自然卵 清阪terrace、WORK SHOP、  
ウノムンド、リカーショップキッタ、HAMBURGER  
TRUCK RED PLANET DINER、ミッチー食堂、  
tavitavi×エキゾチック★モロッコ(デュレントレー  
ディング)、ノボリタイ、森脇酒店、ウステパン、  
手包み餃子と中華キッチンひげ、Neri Miri coffee、  
millibar、COZY Coffee Spot

マルシェスタートの立役者。若手古本屋さん。

古本 トンカ書店、町家古本はんのき、本は人生のおやつ  
です、FOLK old book store、駒鳥文庫、&'s  
(アンツ)、Berlin Books、古本さくら屋、Used Books  
九龍堂、二宮古書部(居留守文庫)、マールカ  
古書店、大吉堂、SUS くらしと本のみせスウス、  
ニッチでセンチおさがり本屋(本)ぼんぼんぼん、  
寸心堂書店、積ん読屋

## その他

グリーン 大阪造園土木株式会社、トワ・フルールのフラワーワーク  
ショップ、はくらボ[認定NPO法人 大阪自然史センター] プロダ  
クト Daystarter、YAOLA:八尾の魅力を発信するプロジェクト。  
骨董 アートアンドクラフトのスリフトショップ まだがんばらせてください、  
カマタ店 京都 占い お話タロット、占いの teruru.me  
レコード The Mobile Record Store 健康 伽羅カイロプラク  
ティック 木工 アトリエカフェのスマートボール屋台 雑貨、出版  
夜長堂&BMC 演劇 一般社団法人 KIO

ジャンルになんかできれない! enoco ならではの  
多領域クリエイター。

広報チラシや顔はめ看板づくりや出店など、いろいろな連携をしています。  
今後はグッズ展開も検討中。次回のイラストは makomo さん。

実は、マルシェで一番の  
チャレンジ企画。

# 広報デザイン

チラシデザイン 小池一馬 ロゴデザイン paragram  
イラスト ハローあやちゃん、ミヤザキ、タダユキヒロ、木村耕太郎

アートや建築など様々な現場で活躍する  
クリエイター。特殊な要望や現場でも  
ニーズに合わせて柔軟に提案してくれる  
頼れる存在です。

# 空間 設計

会場設計 株式会社 POS 建築  
観察設計研究所、幸せ工務店  
什器設計 合同会社アトリエカフェ

# ワークショップ

家具 枚方 家具町工房、SHARE  
WOODS 陶芸 F&m pottery  
製本 ふさこの手作り製本教室  
グリーン 移動花摘みガーデン  
ワークショップ ワークショップ  
デザイン工房 商空間創造  
株式会社スペース

熟練の技を体験できるプログ  
ラム。たった数分で専門の体験  
をさせてくれるって貴重です。

## 事務局あとながき

スタッフと共同企画者の ON THE BOOKS  
よねだ店長がこれまでとこれからの話  
しました。フルバージョンは Instagram で公開します。



—スタートのきっかけは覚えて  
いますか?  
O: 当時マルシェブームで、集客  
できる印象があったこと、古本  
市をと提案があったからですね。  
e: 前に enoco で古本市を開い  
てくれた時、新しいジャンルの  
お客さんが来るなあって実感  
と期待があったこと、マルシェ  
の仮設設置スタイルがチャレンジ  
するにはちょうど良かったから。  
—運営の楽しみや続ける中で  
変化はありましたか?  
O: やっぱりお客さんが来てく  
れることです。自分が楽しんで  
いるから、お店の人やお客さん  
も楽しいかなって。集客の結

果が出ているから結果を出す  
ための作業がまた楽しくなる。  
e: 私は楽しみ方が変わってしま  
いました。最初は立ち上げを楽し  
んで、今は協力してくれる仲間  
が増えたから続けていますね。  
—今後、試したいことはありま  
すか?  
O: カラオケコンテストとか青空  
将棋とか。ああゆうのがあって  
もええなあって。  
e: それってつまり何がしたい?  
O: 場づくりですかね? 可愛らし  
くなりすぎたマルシェに、少しだ  
け土着的な要素を足す。  
e: 買うわけでも、おしゃべりして  
くれるわけでもなく、地元の人  
が勝手に遊んでるような?  
O: うん。今、のび太くんの空

地を想像してる(笑)。最近、子  
供が遊んでるでしょ? それ嬉し  
くて。空き地感ちょっとづつ出  
てるのかも。  
e: 今でもやっぱり enoco は理  
由がないと行かない場所だから、  
理由を作って、ここで遊んで  
もいいんだよってみせる。気づ  
いたらちょっとづつ enoco で遊  
ぶ人が増えてたっていう状況  
になったらいいですね。  
O: ONTHEBOOKS よねだ店長  
e: enoco  
今回のマルシェは  
2019年1月に開催します。  
詳細は6Pをご覧ください。  
2019年  
1月19日(土) 11:00~17:00  
1月20日(日) 11:00~16:00

毛原大樹 スナック スナックツカグラシ パフォーマンス charhan

# マルシェスタートプログラム



## 「これから」のイベント情報 coming events

### Osaka Creative Forum 2018

「プラットフォーム形成支援事業」取り組み紹介と先進事例紹介



大阪府立江之子島文化芸術創造センター(enoco)が実施する「プラットフォーム形成支援事業」(主催:大阪府)では、公共空間の利活用、地域の活性化、まちづくりなど、単独の部局だけでは解決が困難な複合的な行政課題に対して、アーティストやデザイナー、府民、専門家、行政などの多様な立場の組織や人が「プラットフォーム」を形成し、アートやデザイン等をツールとして、対等な立場で交流・対話を行い、解決策を検討する官民共同の体制づくりを支援しています。平成24年度から実施してきた本事業ですが、今年度で終了となります。

毎年、本事業と合わせて実施してきました「Osaka Creative Forum」も今年度で最終回。今回は3月29日(金)に、「都市の使いこなし、舞台としての都市(仮)」をテーマに、パネラーとして平田オリザ氏(劇作家・演出家・青年団主宰)等をお招きして開催します。毎回、トップランナーに最新の実践例をお聞きし、ディスカッションの時間も多めに盛り上がるフォーラムにぜひご参加ください。

詳細が決まりましたらWebサイトに情報をアップさせていただきますのでご確認ください。

- 
- 日時 3月29日(金)18:30~
- 会場 うめきたSHIPホール  
大阪市北区大深町4-1(うめきた広場)
- 登壇者 平田オリザ(劇作家・演出家・青年団主宰)ほか
- 主催 大阪府、大阪府立江之子島文化芸術創造センター(enoco)

### えのこdeマルシェ vol.14



イラスト: makomo

enocoとクリエイターが共同で企画・運営しているマルシェイベント。冬のマルシェは初の試み、enoco全館を会場に仕立て2日間開催します。大人も子どもも楽しめるショップやワークショップなど、ハンゴしながら1日中楽しめること間違いなし。皆様のご来場お待ちしております。

- 
- 日時 2019年1月19日(土)11:00~17:00  
1月20日(日)11:00~16:00
- 会場 enoco館内、入場無料(荒天中止)
- 参加クリエイター

[Shop ショップ] Berlinbooks, chiito 知糸, dandeliOn, debris, Flipp, FUYUNIREと西淡路希望の家, HAPPY GO LUCKY MARKET, Jamboree, ma-ru stainedglass, okapi, OLIM, pearna 毛糸, RumChai & NACIE, SUS~くらしと本のみせ スウス~, オリジナル張り子とベトナム雑貨, タニのいえ, ダルマワークス, ホホ座 西田辺, (本)ぼんぼんぼん ホホ座 交野市店, みーちゃんの絵本屋さん, 九龍堂, 手芸古本 湯熊, 寸心堂書店, 大吉堂, 陶刻家 由上恒美, 尾柳佳枝, 木村耕太郎

[Food 食] hanauta, hinata coffee, LE CORON, ウステパン&うるわし花店, グローブマウンテンコーヒー, ことばを食べるカフェみずうみ, にほんちゃがやラリーおかわら, 食とリズムと./アトリエスタkids

[WorkShop & More 体験など] =YOSHIE(イコールヨシエ), ave\_kago, dead tiny pottery (デットイニーポッター), etrak-glass, passo, satokoのアンティークテイストなカラージュ教室 × ママカメラ教室, toi,toi,to-il, えのこじま凸凹ラジオ, カポエイラ アシェ ベルナンブコ, ヒラメキのタネ, みんなの舞活(ミンナノカ), 凸凹ことのは舎

[Special スペシャル] kioku手芸館「たんす」, makomo

### 創造のテーブル2019



enocoでは今、「教育」「ネットワーク」「プラットフォーム」という3つの軸で事業を進めています。

「教育」は今年度からプログラムをリニューアルし、多様な世代・多様な興味関心を持つ人々がenocoや大阪を拠点に活動や挑戦をしていく、あたらしい未来をつくる学び場を目指し、動きはじめました。

そして、enocoを特徴づける「プラットフォーム」。開館時より、アートやデザインを活用し、都市や地域の課題解決のための仕組みづくりを行ってまいりましたが、これまでのノウハウやネットワークをどうアーカイブし、活用を促していくかを考える時期にきています。

また「教育」と「プラットフォーム」を連携させ、大阪という都市の中で、人やもの・ことの有機的な「ネットワーク」をつくっていくことも、今、重要な課題となっています。

そこで今年も「創造のテーブル」と題して、各フィールドで活躍されるキーパーソンを迎え、「教育」と「プラットフォーム」について対話を交わすテーブルを用意します。関心のあるテーブル(セッション)だけのご参加も歓迎。まずはともにテーブルを囲んでください。

- 
- 日時 2019年2月23日(土)14:00~17:30
- 会場 enoco1Fルーム4
- 参加費 1000円(事前申込・定員50名)
- ゲスト 山崎亮(studio-L代表)  
山下裕子(全国まちなか広場研究会理事)  
ナガオカケンメイ(デザイン活動家)
- 進行 甲賀雅章(enoco館長)  
忽那裕樹(enocoプラットフォーム部門チーフディレクター/E-DESIGN代表)

### enocoの学校 こどもアート学科 作品展(仮)



2018年9月からスタートした、こどもアート学科。受講生13人の作品を展示します。

1年生から6年生と年齢に幅がある中、みんなで同じ素材、技法に取り組み、自分の中の「つくりたい!」という思いと向合ってきました。

個人制作から全員でひとつの作品に取り組んだものまで、全7回のプログラムの成果をご覧ください。展示会の展示構成も受講生と講師で、どんなふうに表示したらお客さんに楽しんでもらえるのか、見に来てくれる人たちの目線にたって、展示計画から考え展示会づくりにも挑戦しました。

展示会詳細は2019年2月頃Webサイトにてお知らせします。

※enocoの学校[こどもアート学科]とは  
2018年からスタートした、小学生を対象とした月1回の定期的なアートプログラム。現代美術家が講師を務め、基礎的な造形力、表現力、創造力を育むため、絵画、立体、版画などのさまざまな技法に触れるカリキュラムに加えて、作品鑑賞や作品の展示計画の検討にも取り組みます。楽しみながら美術を学び、子どもたちの創造力、多様な生き方への視点を養っていくことを目指しています。

- 
- 会期 2019年3月14日(木)~24日(日)※18日(月)休館
- 時間 11:00~19:00
- 会場 enoco 1Fルーム4、入場無料

# エキシビジョンカレンダー 2019年1月 - 5月

## exhibition calendar

月	会期	時間	展覧会名	ルーム
1	11(金) - 20(日)	11-19(最終日のみ16時まで)	西淡路希望の家×大阪成蹊大学	[ルーム3]
	11(金) - 27(日)	11-19	間合いの良さ -コレクション考察-	[ルーム4]
	22(火) - 27(日)	未定	大阪府 ART Stream 2018「横峯竜之展」	[ルーム2]
	29(火) - 2/3(日)	未定	第12回 摂南大学建築学科卒業研究作品展	[ルーム1,2,3]
2	5(火) - 10(日)	未定	Phat PHOTO 大阪校グループ展	[ルーム4]
	12(火) - 17(日)	11-20(土曜11-19,日曜11-16)	Friends -フミさん追悼写真展-	[ルーム1]
	12(火) - 17(日)	10-17(日曜10-16)	自然 生き物 女性たちに焦点を当てるスペース展	[ルーム2]
	12(火) - 17(日)	11-18(日曜11-15)	下田さや香 個展 さやかのせかい	[ルーム3]
	12(火) - 17(日)	11-19(日曜11-16)	第22回 サカナヘノヒトタチ展	[ルーム4]
3	19(火) - 24(日)	未定	第27回 近畿大学文芸学部芸術学科造形芸術専攻卒業制作展	[ルーム1,2,3]
	14(木) - 24(日)	11-18	こどもアート学科 作品展(仮)	[ルーム4]
4	2(火) - 7(日)	11-20(日曜11-16)	写真集団FoTo&FoTo SQUARE合同写真展	[ルーム4]
	30(火) - 5/5(日)	未定	NEXTA'19	[ルーム1,2,3,4]
5	14(火) - 19(日)	未定	京都造形芸術大学通信教育部大阪クラブ絵画展	[ルーム1,2,3]
	14(火) - 19(日)	未定	気ままに、楽しんでます。	[ルーム4]
	21(火) - 26(日)	未定	第24回 アートムーブコンクール展	[ルーム1,2,3,4]
	28(火) - 6/2(日)	未定	AVA ART FESTIVAL	[ルーム1,2,3]

くわしくはWebサイトをご覧ください [www.enokojima-art.jp](http://www.enokojima-art.jp)

### PICK UP

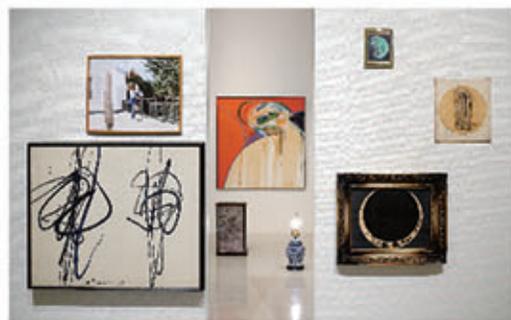
## 大阪府20世紀美術コレクション 間合いの良さ —コレクション考察—

今回の大阪府20世紀美術コレクション展は、大阪を拠点に活動する現代美術作家Yukawa-Nakayasuを招き、収蔵作品の活用と展示の可能性を探ります。

Yukawa-Nakayasuは歴史や習慣をもとに、私たちの社会や身体、日常に内在する人間の営みを視覚化する作品を国内外で発表し、近年大きな注目を集めています。本展では、Yukawa-Nakayasuの独自の視点で選んだ大阪府の収蔵作品と、Yukawa-Nakayasuの作品を共に配置することで、収蔵作品の新たな一面をご覧ください。

ここに言う「間合い」とは、展示空間における「作品と作品の間合い」や、「鑑賞者と作品の間合い」、また「展覧会と鑑賞者の間合い」など、あらゆるモノとモノの間に存在する「間合い」を指しています。鑑賞者はあらゆるものに生じる「間合い」を感じとることで鑑賞者自身も「間合い」の主体となり、鑑賞行為そのものを自らに問いつけることになるでしょう。

大阪府20世紀美術コレクションを今までとは違った角度から観賞する本展で、大阪府の収蔵作品の新たな魅力をご堪能ください。



会期 | 2019年1月11日(金)~27日(日)※月曜休館

時間 | 11:00~19:00

料金 | 無料

会場 | enoco1Fルーム4

ギャラリートーク |

1月19日(土)14:00~15:00 入場無料/事前申込不要

Yukawa-Nakayasuと中塚宏行(大阪府文化課研究員)が本展の「間合い」について語ります。

## レビュー review

### 『プレスアルト』誌と戦後関西の広告

(2018年10月2日~2018年10月13日)

エスベラント語で「印刷美術」を意味する名に冠した『プレスアルト』誌は、1937年に陸清吉によって創設されたプレスアルト研究会の顔布物。広告やパッケージ、包装紙などの印刷物の実物を冊子として綴じ、加えて、批評なども掲載した当時の「図案家」にとっての貴重な情報源だった……と紹介される『プレスアルト』誌は、現在となつては簡単には入手できない資料になっており、半ば伝説化された存在となっている。私もこれまで現物を見る機会はなかった。その『プレスアルト』を所蔵する大阪新美術館建設準備室(以下、「新美術館」)のコレクションを一挙に「開棚」したのが本展「『プレスアルト』誌と戦後関西の広告」だ。

展示は、①『プレスアルト』誌のケース展示、②新美術館、大阪府所蔵の同時代のポスターコレクションの展示、そして、③大学生による研究ポスター発表で構成され、加えて、研究者によるシンポジウム「関西広告を開棚/アンパックする —『プレスアルト』誌というアド・アーカイブ—」が実施された。

大阪をベースにグラフィックデザインの実践と研究を行う者として、地元大阪の「印刷美術」の歴史にアクセスできる貴重な機会であり、新しい美術館のコレクション公開に大きな期待を抱かせる展示となつていた。本展実現への敬意を表しつつ、その上で以下の2点について指摘したい。

まずは、資料の閲覧について。文字通り『プレスアルト』が「開棚」され、実物を見ることのできることはとても貴重な機会ではあったが、同誌が目指したことを鑑みると、やはり手にとってページをめくる体験を提供してもらいたかった。また、少なくとも複製資料(あるいはページをめくる映像)などがあれば、さらに中身に踏み込むことができたと思う。

次に、展示の軸が「研究」に置かれ「広告資料」としての価値が取り上げられていた点について。欲を言えばグラフィックデザイン的な側面からのアプローチ——例えば、当時の印刷技術と表現との関係や、レタリングや活字への言及など——も見てみたかったところだ。研究者だけでなく、関西で活動するグラフィックデザイナーたちが『プレスアルト』誌をどう見たか、その「研究発表」があれば、コレクションならびに資料をどう活用するか、新美術館の「プラットフォーム」としての可能性を示せるのではないだろうか。新美術館のアーカイブの公開と活用を期待を込めて。

※大阪新美術館建設準備室は展覧会開催時の名称となります。2018年11月1日より「大阪中之島美術館準備室」となっています。

後藤哲也

OOO Projectsディレクター、近畿大学文芸学部講師、大阪芸術大学デザイン学科非常勤講師、大阪を拠点にグラフィックデザインの実践と研究を行う。最近の主な活動:「FIKRA GRAPHIC DESIGN BIENNIAL 01」(アラブ首長国連邦)、「GRAPHIC WEST 7: YELLOW PAGES」(京都dddギャラリー)、「グラフィズム断章:もうひとつのデザイン史」(クリエイションギャラリーG8、東京)など。著書:「YELLOW PAGES」(誠文堂新光社)。enocoのお隣FLAGスタジオに拠点を構え、アート・デザイン関連イベントも企画運営している。



『プレスアルト』誌と戦後関西の広告」会場写真  
撮影:村上登志彦

## 「これまで」のイベント情報

past events

## おおさかアート commons(仮称)オープン・ミーティング

「大阪の芸術文化の支援をめぐる～地域をつなぐアートプロジェクトの事例から～」

2018年11月24日(土)

enocoでは「ネットワーク」をひとつの軸に据えています。“府立”の文化施設として中長期的な視点に立ち、大阪の芸術文化のハブとなり、enocoにひと／もの／こと／情報が行き交い、多様な個人や組織が創造的な活動に参加する機会をつくりだすことをひとつの目標としています。そこでまず、アーツサポート関西、大阪アーツカウンシル、おおさか創造千島財団という3つの団体・機関と連携し、情報や課題の共有の場「おおさかアート commons(仮称)」を試行させました。今回はそのキックオフとしてオープン・ミーティングを開催しました。

第1部では、各団体における「支援」の紹介と、その支援の事例紹介が、支援を受けた実践者・つなぎ手等から行われました。多様な支援のあり方―助成金などの資金的支援、事業の中で位置付け、初動期を支える支援、ノウハウの提供や仕組みづくりの支援等―をまず整理し、議論を始めるべきだったという反省もありますが、それぞれの特徴と課題を共有する機会となりました。いわゆる「助成金」も、個別の活動・事業等に対する助成だけでなく、拠点形成やアーティスト個人への助成が行われるなど、大阪における「支援」と「実践・現場」は今、転換の時期にあるように思われます。第2部では、そういった状況も共有した後、今は仮称である「おおさかアート commons」の期待される未来像についても議論しました。その中で、enocoが芸術文化に関わる様々な立場の人々が行き交う場になればというメッセージもありましたが、実際に終了後は、会場内で参加者・登壇者各々が話をしたり、第3部として行っていた個別相談会のためにミーティングをしたりといった姿が見られ、新たなネットワークの場のはじまりを感じることができました。「おおさかアート commons(仮称)」はさらに広がりを持ったものにしていく継続的に場をひらいていきます。次回は2月、再びenocoで開催します。

高坂玲子 enoco企画部門



## ●登壇者(発表順)

木坂葵(おおさか創造千島財団事務局長)  
北村智子(おおさか創造千島財団常務理事)  
峯田悦子(特定非営利活動法人人形浄瑠璃文楽座事務局長)  
大島賛都(アーツサポート関西チーフプロデューサー)

内山幸子(五領アートプロジェクト ディレクター/  
大阪アーツカウンシル アーツマネージャー)  
中西美穂(大阪アーツカウンシル 統括責任者)  
高坂玲子(enoco企画部門チーフディレクター)  
忽那裕樹(enocoプラットフォーム部門チーフディレクター)

## ミサキノ編集教室

2018年9月29日(土)、11月4日(日)、12月9日(日)

enocoへの相談がきっかけではじまった、大阪最南端のまち・岬町でのオンザジョブ型SNS連続講座「ミサキノ編集教室」が開催されました。

当初の町からの相談は、「住民のSNSリテラシー向上と情報発信力の強化」でしたが、それに加えて、町外から訪れた参加者の滞在時間が少しでも長くなり、地域を満喫してもらえるように町主催のプログラムを舞台にワークショップを展開しました。

また、実施前にも、コアワークショップを開催し、住民の方と町外の方との交流を重ねながら、まちについてリサーチを行いました。

あわせて、講師の選定についても住民と出会うことで掘り起こりやすい講師という視点で、香川県多度津町で広報ディレクターをしている写真家の日根野太之さんと、様々な大学で情報発信に関するクラスを担当し、カフェ併設の障がい福祉作業所「GIVE&GIFT cafe」を運営している中川悠さんをお招きしました。これまで岬町が不得意としてきた町内への周知も、受け手に合わせたチラシを2種類作成し、町内へ全戸配布することで、参加者の8割が住民という、うれしい結果が出ました。

参加者からは「同様のワークショップはよくあるが、講師

が直接1人ずつの原稿や写真の構図を添削してくれる機会はなく、大変学びにつながった」や「これをきっかけとしてまちをみる目が変わった」などの声があり、物理的に目線を変えさせたり、無意識的に使っている言葉を見直すきっかけになった満足度の高い事業だったと手応えを感じています。

enocoが関わる事業は今回で終了しますが、ここで築いた関係を基に引き続き併走していければと思っています。

古谷晃一郎/enoco企画部門



## 続・enocoの学校

2018年9月15日(土)～2019年3月16日(土)

enocoの学校に通い出して2カ月が経ちました。普段の会社員生活の中で出会うことの無かった言葉や概念を知り、講義は毎回刺激的です。こんな世界が!こんな分野が!こんな考え方が!あるのかと驚きと発見で、知的好奇心をぐいぐい刺激されています。講義の後のワークショップでは、様々なバックグラウンドを持つ受講生の仲間と、意見交換し、まとめ、発表することは、とても新鮮な作業です。受講後の夜学では、知恵熱状態の頭に、冷たいビールが適度な興奮緩和をもたらしてくれています。

さて、目下の課題は、3月に控えた発表会です。何ぞの様な形で企画するかは、受講生の自主性に任せられています。それだけでワクワクが止まりませんが、何一つ進んでないように見え、いよいよ焦りも出てきました。しかし、「学び」に正解はなく、失敗してもよい、

と言いつつも、この緊張感を大いに楽しみたいと思っています。

萩原健/ポッセ





# enocoのひとびと people



祝!!グッドデザイン賞受賞。enocoが共同で、木津川遊歩道トコトコダンゴの仕組みづくりが評価されました。うれしいかぎり、若きクリエイター発掘ができ、公共施設の新しいデザインが市民によって生まれている。4789件応募から19件の受賞は素晴らしい!関係者みなさんおめでとう!(プラットフォーム部門 忍部裕樹)



旅に出たい欲求を満たすべく、先日、日帰り一人旅に出掛けました。行き先は大阪府東部のまち、岬町。単線電車に乗って、目的地岬町駅のホームから見えた海を目指して歩き、夕暮れ時の海沿いを興奮しまくりながら写真を撮りまくる。夜は豚肉を食す会に参加してきました。海も山も楽しめる岬町、オススメです!(企画部門 高橋真理子)



毎年のことですが、これから年末に向けて来年の事業計画・建物修繕・収支計画などパソコンと向き合う日々が続きます。休日のゴルフで、縁と触れ合う機会はあるのですが、最近、目のピント調節がうまくいかなってしまいました…加齢こわい…。(enoco担当マネージャー 石川英樹)

enocolumn 18

老後も楽しく暮らしたい

自分の老後を楽しむにはどうしたらいいのか?をまじめに考えています。まず場所について。山口で5年務めたあとメキシコに1年滞在、いま住んでいる高槻市は故郷でもないけれど、なんとなくいつも戻って来るから、結局ここを選んでいくことなのだと思います。一方、働き方について考えてみると、アートマネージャーは雇われ型が基本で、いわば他人の土地を耕す人。労働条件が厳しく将来の見通しがつかないなかで、自然と「自分の足元を耕して、自分のアート労働を自分の生活に還元する働き方がしたい」と思うようになりました。その実験として2017年に隣町でスタートしたのが「五領アートプロジェクト」です(深澤孝史さんのアートプロジェクト「西国-よしあし-街道-蚤の市」に冠して名付けられたもの)。

五領地区はベッドタウンの高槻でも農村の面影が残る地域ですが、2016年末には産業廃棄物焼却炉の建設計画が浮上し、10万超の署名を集める住民運動に発展しました。建設計画は中止になりましたが、五領地区では、これをきっかけに住民のまちづくりへの思いに火がついて、その後もさまざまな地域活動が続いています。五領アートプロジェクトは、そこに紛れ込むように生まれた地域の文化活動の1つだと捉えています。いまも五領の人たちからは、住民運動の結果はもちろんですが、自治会の垣根を越えて人と出会えたことが嬉しいという声を聞きます。自分の20年、30年後の暮らしを楽しむものは何だろう…地域の人たちの楽しみ方を観察しつつ、来年の企画を思案中です。

## 内山 幸子

五領アートプロジェクトディレクター、アートマネージャー。秋吉台国際芸術村(2006-10)を経て、メキシコでフィールドワークを行う(2011-12)。帰国後、関西を拠点にフリーランスとして活動開始。2015年より地元・高槻在住のダンサーたちによる高槻井戸端ダンスプロジェクトに参加し、2017年より五領アートプロジェクトをスタート。これまでの活動にBreaker Project(kioku手芸館たんす)プログラムディレクター、NPO法人アートNPOリンク事務局、京都精華大学「芸術実践と人権—マイノリティ、公平性、合意について」プロジェクトコーディネーター等。



## モノ好き館長 甲賀雅章の 四方山話。

Vol.3  
作り手に  
会ってみたい  
プロダクト

ハッキリ言って、僕は「モノ好き」である。まだ数寄者の域には達していないが、変わった?いや、僕にとっては魅力的な物、者、ものを紹介していきたいと思う。

モノとの出会いも、人との出会いにも似て実に様々である。

旅先でふとしたきっかけで出会ったり、人からの紹介だったり、ネットを介してだったりする。いずれにしても、その後いい付き合いができるかどうかは、しばらく時間が必要であるが、いいと分かると、物好きの僕には悪い癖がある。同じものを色や柄違いで2つも3つも所有したくなるのである。久しぶりに訪れた友人の店でこの墨模様のiPhoneケースを見た時は、久しぶりに気持ちが高ぶった。アート作品のようだった。話を聞けば、この墨のパターンは別注品のため数も少ないという。しかも1つ1つが手描きなので世界に二つと

無い代物だ。物好きは、こういう話に弱い。結果、数ヶ月して2つ目を買うことになる。

エナメル素材に職人が一つ一つ違う大胆なペイントを施した人気のシリーズ、上質なベジタブルタンニンレザーを使用し、丁寧に作りこんでいるので、使うほどに味が出てくる。そして何よりも僕を虜にしたのは、携帯電話のケースという機能を越え一つのアート作品としての雰囲気を持っていることだ。「秩序あるスラム街、偶然におもうことも、実は必然であるというのが唯一のコンセプトです。」と、macromauroのデザイナーは語っている。近いうちに大阪にあるアトリエを訪れてみたい。そんな衝動に駆られている。



## 大阪府 20世紀美術コレクション

この一点!

1974年から2007年にかけて大阪府が収集した「大阪府20世紀美術コレクション」。総数およそ7900点の中から、enocoスタッフのおすすめ作品をご紹介します。



※左から  
《たのしい日曜日》1972年 / 42 x 54cm / 木版、リノカット、フロッターージュ、紙  
《首を売る男》1973年 / 52 x 43.5cm / リノカット、フロッターージュ、紙  
前田 藤四郎 (1904-1990)

たった1年のあいだに何があったのか? 《たのしい日曜日》という作品名からうかがい知れるように、上段左の作品は、湖畔のような水辺で過ごす人々の姿が表現されているようにみえます。版画家・前田藤四郎は、男性を寒色系の色合いで、女性を暖色系で表現する傾向があったことから、一番大きく描かれているのが女性、水辺にいる3人は男女の子どものようです。その1年後の作品が、右の《首を売る男》です。なんとも、おどろおどろしい作品名ですね。いったい何があったのでしょうか。2作品のテーマのギャップがとても激しいです。《たのしい日曜日》に描かれている、女性を表現したと思われる一部を、首を売る男が持っているのでしょうか?表現がまったく同じで気になってたまりません。前田藤四郎は、これらの作品に共通する、円・三角・細い線を用いた人物表現が複数の作品で見られますが、注目すべきは、それらの作品でこのギャップが繰り返されていることです。たとえば、1974年に《狂乱》、1976年に《デート》というように。

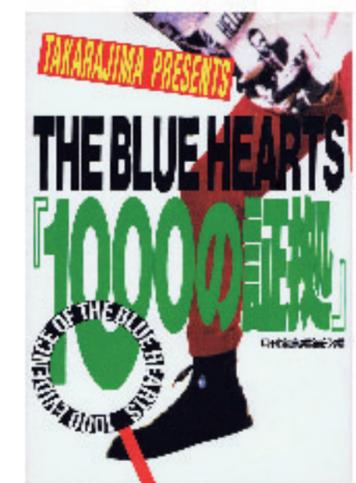
前田藤四郎が何を意図してこのギャップのリズムをつくっていたか、とても気になります。このように、同じ作家の同じ作風の作品を注意深く追いかけてみるのも、おもしろいものです。



濱本 庄太郎  
enocoプラットフォーム部門

## オン☆ザ☆レビュー

enoco地下1階の古書店、ON THE BOOKS 米田店長によるブックレビュー。アートブック・写真集・デザイン・建築・ファッションからマンガ・音楽・映画・オカルトまで、多彩なラインナップの中から、今の気分をあらわす1冊をご紹介します。



## ザ・ブルーハーツ『1000の証拠』

バーバーママーおはよーございまっす!(少年の詩)…ブルーハーツを思い出すとき、一番最初にこの歌詞が頭の中で流れます。もちろん今も流れています。さてさてサブカル雑誌の宝島が、80年代のバンドブーム時代に得意として出版していたバンドムック本です。ハガキ職人らしきファンからの投稿ネタ&暴露話、キラキラファンシーグッズ系の似顔絵など、なかなかの軽薄さとおちゃらけた内容。そんな誌面の中にも、辻仁成が語るヒロトとの交友録、さらには大御所ダークダックスからのメッセージなんかかもしれっとあったりして、気付けばページの隅々まで読んでしまう1冊です。

ON THE BOOKS  
営業時間:11:00-20:00(月曜日定休)  
掲載の書籍は店頭・オンラインストアで販売中  
www.on-the-books.info

米田 雅明  
ON THE BOOKS 店長



地域情報  
ページ

area info

このページは、enocoのまわりで活動するみなさんに活動を紹介してもらうページです。今回は、2019年1月19日(土)にenoco地下1階にグランドオープンするカフェ「Coral Parlar enoco(コーラルパーラーエノコ)」さんに活動を紹介してもらいました。

今号の担当者:

「Coral Parlar enoco(コーラルパーラーエノコ)」さん



enocoのある大阪市西区江之子島では、アートやデザインのちからで、暮らしをより楽しむための文化活動「DECOBOCO(デコボコ)」が行われています。

www.enokojima.info

The Blend Art Exchange Program 03  
Fabian Hammerl



©Fabian Hammerl

此花の宿泊施設The Blend Inn & Apartmentsによる文化庁アーティスト・イン・レジデンス支援事業「The Blend Art Exchange Program」の第3弾プログラムとして滞在中の写真家Fabian Hammerl(ドイツ)による展覧会をフラッグスタジオで開催。二ヶ月半の間、地域の複数のアーティストと積極的にコラボレーションを行ってきた彼の滞在中の制作の記録を空間に展開します。

Fabian Hammerl (ファビアン・ハメル)

1971年生まれ。写真家。ドイツMuthesius Hochschuleにて写真を専攻。現在はドイツ、ハンブルグを拠点に活動中。

www.fabian-hammerl.de

会期:1月8日(火)～1月13日(日) 13:00～19:00

料金:入場無料

会場:フラッグスタジオ

えのこしまだけで聴ける!  
凸凹ラジオ(FM89.2)も放送中!



www.enokojima.info/radio

江之子島芸術の日々2019  
「Plants of Glazed Growth」



「Plants of Glazed Growth」は村田宗一郎と三嶋一路によるコラボレーションユニット、初の個展です。1985年生まれの村田は、建築や詩をテーマにドローイングやインスタレーションなどの作品を国内外のギャラリーや美術館で発表。1986年生まれの三嶋は、写真やテクノロジーを扱った自身の制作と並行して、他アーティストとの協働や技術提供を行なっています。本展は、近代になって発明された植物運搬用のガラス容器「ワードの箱」と、ワードによる論文タイトル「On the Growth of Plants in Closely Glazed Cases」からインスピレーションを受けて構想されました。日差しを取り入れながら旅をする植物とアーティストには、共通する点があると村田と三嶋は言います。様々なメディアを組み合わせて構成される彼らの「光のある空間表現」を目撃してください。

会期:3月21日(木・祝)～4月7日(日)13:00～19:00 ※月曜休館

料金:入場無料 会場:フラッグスタジオ

協賛:アートチャイルドケア株式会社

その他、卓球教室やヨガ教室など定期講座も開催中。くわしくはFacebookページ、ならびに、えのこしまの情報サイトwww.enokojima.infoをご確認ください。

enoco  
地下1階に

美味しいコーヒーと、サンドイッチ&  
スパイスカレーが楽しめるデリカフェ

2019  
1/19

Coral Parlar  
enoco

GRAND OPEN!

時間がない時にもサッと食べられるのが魅力のデリカフェ。明るく開放感あふれる店内は、女性1人でも利用しやすい雰囲気♪テイクアウトできるので、持ち帰ってゆっくり食べることもできます。



お店のおススメ!

スライスした牛肉と  
トロ〜リチーズの  
フライチーズステーキサンド



ボリューム満点のサンドイッチ  
SANDWICH

朝食、ランチ、軽食とどの場面にもピッタリ。ニューヨーク定番のルーベンサンドやスピナッチ、タマゴサンドなどがラインナップ!



バラエティー豊かなスパイスカレー  
SPICE CURRY

見た目も味もパンチが効いたスパイスカレーが食べたくなったら、ぜひ足を運んでみて!合掛けが楽しめるダブル・トリプルもあります。



COFFEE じっくり丁寧に淹れる  
こだわりのコーヒー

話題のクレバードリップを使用。カップングやドリップ、サイフォンなど、いいとこ取りの抽出方法のドリッパーで、深みのある味わいが楽しめます。豆にもこだわった美味しいコーヒーをどうぞ!

WINE & BEER  
Alcohol  
都市型ワイナリー  
島之内フジマル醸造所の  
島之内クラフトビールなど  
ワインやクラフトビールなど  
お店こだわりのお酒も  
ご賞味あれ!

姉妹店



CORAL KITCHEN at sea  
コーラルキッチン  
アットシー(中之島店)  
https://coral-kitchen.jp/sea/



CORAL KITCHEN at one  
コーラルキッチン  
アットコーヴ(西宮店)  
https://coral-kitchen.jp/cover/

Coral Parlar enoco(コーラルパーラーエノコ)

世界各地から選りすぐりのハンドドリッパーとオーダー後ひとつひとつ丁寧に仕上げるボリューム満点のアメリカンサンド、絶妙なバランスで調合したスパイスカレーを、ゆったりとした空間で楽しめるお店で、全ての商品をテイクアウトでき、テラス席やキッズスペースはもちろん、お子様向けのメニューもご用意しています。江之子島の日常に溶け込むような居心地のいい空間づくりを目指しています。

営業時間:11:00～20:00(L.O.19:30)  
定休日:月曜日  
住所:大阪市西区江之子島2丁目1-34 enoco 地下1階  
TEL:06-6445-8035  
Webサイト:https://coral-kitchen.jp/enoco/

